

城取博幸の

中国 南京、無錫のスーパーマーケット見聞録

NO44

2013年 9月

城取フードサービス研究

城取 博幸

<http://www.shirotori-f.com>

中国の消費購買力の動向

中国の消費支出は日本の1960年代後半の水準で伸び代は大きい。

中国における一人当たりの年間消費支出金額の推移は、2001年からの10年間、年平均伸び率11.1%のペースで増加して、2011年には一人当たり年間15千元（約190万円）と約3倍に伸びた。

この計算でいくと、2013年には230万円になる計算だ。即ち、需要サイドである消費者の購買力の観点でも、中国の伸び代は大きく、小売企業にとって、十分に成長を見込めるマーケットであると考えられる。



街の一等地にある「くだもの屋」 照明はオシャレだが、冷蔵ケースはない。

中国と日本の業態シェアの比較（チェーン店のみ 中国2010年、日本2007年）

デパート 中国 21.1% 日本 14.1%

総合スーパー 中国 22.8% 日本 13.6%

食品スーパー 中国 21.0% 日本 31.2%

コンビニ 中国 1.9% 日本 12.8%

専門店 中国 33.1% 日本 28.4%

ホテルの近くを30分歩いても、南京では近代的なスーパーマーケットやコンビニを殆ど見かけない。生鮮食品やチルド商品を扱わない個人商店やドライ食品中心のコンビニらしきものは存在する。

今後、生鮮食品を扱う「食品スーパー」と「コンビニ」がシェアを押し上げるのは確実。

外資系企業も確固たる地位を占めている

上位企業は概ね中国全土または広域に出店している点の特徴だが、まだ地方都市には出店余地が残されている。

総合スーパーを有する企業 売上高ランキング（2011年）

1位	華潤万家	中国	売上高 82,700	店舗数 3,977	総合のみ 492
2位	聯華超市	中国	68,076	5,221	154
3位	大潤発	台湾	61,567	185	185
4位	カルフル	フランス	45,196	203	203
5位	ウォルマートアメリカ		43,000	271	225
6位	物美	中国	33,031	409	122
7位	永輝超市	中国	20,380	204	153
8位	テスコ	イギリス	18,000	121	110
	イトーヨーカ堂	日本	7,486	13	13
	イオン	日本	6,662	30	27

台湾系の「大潤発」の1店舗当りの売上がダントツに高い。中国のある大学の調査でも「大潤発」は、「高感度」「忠実度」ともにナンバーワンである。

一方、同ランキングでは、日系のイトーヨーカ堂やイオン等は上位10社に入らないものの、各出店地域において、地元に着しながら確固たる事業基盤を築いている。

日本企業は日本ブランドと日本式サービスで「高品質」「高付加価値」を追求している特徴がある。

参考資料 三菱東京UFJ銀行

https://reports.btmuc.com/fileroot_sh/FILE/information/120801_02.pdf

マルエツの中国 無錫1号店をどうしても見に行きたい。

南京には、ウォルマート、カルフル、オーシャン、メトロなどの外資系の小売業があるが、何より記念すべきマルエツのオープンを優先したい。今ある環境を最大限に生かしたい。「無錫」は上海から高速鉄道で約30分、南京からは約1時間。

中国は秋の連休中、明日駅に並んで挑戦してみようと思う。

2013年9月30日 「マルエツ無錫店」「LINCOS」がオープンした。

開店おめでとうございます。今後益々の発展をお祈りいたします。

「せっかく中国 南京まで来たのだから、高速鉄道を使って「無錫」まで行き、マルエツの歴史的なオープンを見ておきたい」との思いから、朝7時に駅に並んで、チケットの手配を試みる。駅は連休中だけあってもの凄い人。

チケットが手配できた

前日、ネットで時刻表を確認し、往復の時間を書きとめておいた。

列車番号、時間、座席の種類、1張(名)と書いて、往復とも窓口のガラスに張り付けて交渉してみる。行きは7時台を希望したが、8時40分の予約が取れた。帰りは希望通り2時の予約が取れ、パスポートを提出して往復のチケットをゲットする。

今回の旅行は、成田→上海→南京→上海→成田だが、南京→無錫→南京の電車がプラスとなった。

スーパーのオープンのために、東京→名古屋→静岡→名古屋まで新幹線を使って見に行くようなものだ。好きでなくてはできない。



「上海～南京」を走る中国高速鉄道

日本の新幹線によく似ている。

時速300kmは超えないが、298kmまでスピードをだしている。

少し騒音はするが、揺れは少ない。



無錫に到着

無錫市の町並み。高層ビルが林立し始めている。

駅から2kmほどを30分ほどかけて歩く。



「新生路」と「人民中路」の交差点にアドバルーンを発見。

2009年に日本のラオックスを買収した中国の大手家電量販店チェーン「蘇寧電器」の「無錫蘇寧広場」の地下にマルエツがオープンしているはずだ。

地下に降りてスーパーマーケットを発見。

「マルエツ」の名前はどこにもない。入口で「この店はマルエツですよね！」と日本語で尋ねると「そうです」と日本語で答えが帰ってきた。

マルエツの中国の店名は「LINCOS「リンコス」だそうです。

心からご成功をお祈り致します。

「リンコス」は日本の高輪など高級住宅地に展開する高級スーパーマーケット。その中国1号店がここだ。

日本から応援に来ているスタッフにしばらく話を聞く。

店の広さは約700坪。レイアウトは「コの字型」、日本語を話せる現地スタッフ採用し日本式サービスを提供、日本かの商品も数多く揃えたとのこと。

「高級スーパーと聞いていますが、香港のシティスーパーレベルですか？」

と尋ねると、「いや、こちらでは日本のスーパー自体が少し高級スーパー扱いになります」と少し控えめに答えてくれた。入口から中を覗けば、どう見ても中国では高級スーパーマーケットである。

「記念すべき中国1号店を、日本からわざわざ見に来ました。頑張ってください」とエールを送る。

無錫 マルエツ「LINCOS」の店内

オープン2日目の店を覗いて見た。



くだものの品揃えと鮮度は抜群！

入口を入るとカラフルなくだもの売場が目飛び込んでくる。品数、鮮度、ボリュームとも申し分ない。中国人はくだものをよく食べる。街には至る所でリアカーでくだものを売っているが、ハエがたかっていたりで鮮度が悪い。

野菜は冷蔵多段ケースで展開。

商品整理もよくできている。



デリカ重視の店

「中国デリカ」と「日本デリカ」の売りが壁面に沿って続く。中国スタイルの弁当は18元、日本スタイルの弁当が28元が中心価格だ。「カツ丼」などの丼も品揃えされている。

中国スタイルの弁当 18元

中国でも弁当は定着し始めている。15元であったらなおいという感想。



日本スタイルの弁当 28元

日本の弁当と殆ど変わらない豪華さ。



人気の「天ぷら」売場

天ぷらは11時でもう1回転している。日本食といえば「天ぷら」が代表。「丸亀製麺の天井」は、サンプルケースにはあるが、注文すると「出来ない」と言われるほどの人気。てんぷら専門店が中国で通用する。



「和日配売場」

日本の中型店程品揃えが豊富だ。



「紀文の冷凍おでん材料」

冷凍販売ではあるが、マネキンが付いて「おでん」を提案している。帰りに屋台を覗いて見たが、手羽先、茹で卵入りのおでんらしきものを販売していた。



「肉の対面売場」



「北海道直送のカニ売場」

肉はパック売りと対面販売を行っている。中国人は魚より肉をよく食べる。対面売場は必須だ。冷蔵平ケースに北海道産の「毛がに」「ズワイガニ」が売られている。珍しいせいかよく客が集まっていた。街を歩いていたら「上海ガニ」の行商を見かけた。そろそろ上海ガニの季節が始まる。



「寿司売場」

日本と全く変わらない品揃え。11時にはにぎり寿司の値引きが始まった(写真奥)。これも日本式鮮度管理。



「乾麺売場」



「和のスーツ売場」

日本の乾麺がずらりと並ぶ。中国人はチルド麺より乾麺をよく食べる。

日本の「どらやき」も縦割りで品揃えされている。

酒売場は入口をに入って左側、雑貨、ヘルス&ビューティ売場は動線の一番最後。動線の頭と最後に合計10台のレジが配置されている。

全体的な店の感想は、どう見ても「高級スーパーマーケット」である。

日本らしさもよく出ていて完成度の高い店である。

ただ、気になるのは、ドライ食品売場が少し狭いという印象。日本の「北海道」「京都」「東京」「大阪」などのみやげ物コーナーがあってもいいかなと思う。

もう一点は、香港の「シティスーパー」はいつ行っても「日本の物産展」をやっています。日本デリカと和日配の間の催事場が「ミニ物産展会場」になったら、さらに楽しい店になるのではないのでしょうか。

無錫のマルエツ「OLINCOS」

台湾素食冷凍食品シリーズ

台湾の大豆タンパクを使った「素食」の加工品。料理ではなくそのまま料理に使える加熱済み商品。電子レンジ可能。包装形態はトップシールの上にカラー印刷のシールを張り付けたもの。



無錫マルエツの冷凍食品売場で販売されていた「台湾素食」。

価格もファミリー向けの容量で15元以下と買いやすい。全品試食したが料理して目隠しで食べれば、本格的な台湾料理である。そのままだと少し脂っこい。



「三杯鶏」「Vege Taiwanese Chicken」200g 11.5元
台湾の大豆タンパクを使った味付けした「素食」。野菜は入っていないが、味は鶏肉、食感は練製品のような。スープも少し入っているため、野菜と炒めるだけ。



「East Frozen Fried Tofu」400g 8.8元
写真は千切りだが、中は豆腐がぎっしり詰まっている。大豆タンパクとデンプンを組み合わせて加工。「こんにやく」とは書いてないが、豆腐こんにやくの食感。薄い味が付いている。



「白帯魚」「V e g e R i b b o n f i s h」170g 13.2元

大豆タンパクに海苔と湯葉で細工した魚の切り身を思わせる素食。実によくできている。そのまま食べてもおいしい。



「M u s h u r o o m C h u n k」200g 13.2元

大豆タンパクに椎茸を練り込んだもの。スープに入れて料理するようだ。そのまま食べると香辛料の味がきつい。



「V e g e S u p r e m e M e a t B a l l」200g 11.5元

大豆タンパクと野菜を混ぜた肉団子。見た目はゴツゴツしている。食感はパリパリ。これも目隠しで食べれば分からない。



「Vege Stuffed Meat Ball」160g 10.8元

こんにゃく粉、小麦タンパク、大豆タンパクを使い、しかも中に具を潜ませるという優れた技。目隠しで食べれば包子そのもの。



「Vege Chicken Chunk」150g 9.6元

大豆タンパク、植物油、デンプンで加工。「鶏天」のような食感と味。出来は非常によい。



「Braised Side Pork Chunk」200g 8.8元

大豆タンパク、魔芋、植物油で加工。魔芋はたぶん「こんにゃく」。豚肉味の大豆タンパクとこんにゃくが層になっている。見た目は豚バラ肉そのもの。よくも大豆タンパクとこんにゃくをここまで加工したと感心する。

「築地グルメ亭 OKAFODDS」の冷凍焼魚シリーズ



マルエツ無錫店の「冷凍焼魚コーナー」



冷凍「青ヒラス西京焼き」2枚×3 42.5元

ニュージーランド産 青鮫を西京漬けにしてさらに焼いたもの。値段は張るが味は「銀ダラの西京漬け」のような味。生臭さは全然なくおいしい。

冷凍「サワラ西京焼き」2枚×3 24.5元

日本で売られている「加熱済みのサワラの西京焼き」と遜色ない。むしろ鮮度はこの商品の方がいいかもしれない。

中国と日本の外食におけるプライスポイント

中国の高速鉄道のコーヒーの価格が15元（約250円）日本の新幹線は300円。

中国の大衆外食チェーン店の1食の最低価格が15元、現地の「丸亀生麺の素うどん」の価格が15元。

どうやら、15元（250円）が中国の外食のプライスポイントのようだ。

それに対して日本は、牛丼、うどん、そば、弁当の280円～298円がプライスポイント。中国も日本も殆ど変わらなくなってきている。



中国外食チェーンの「15 元のランチ」



中国に買収された「ラオックス」の店舗

ラオックスの建物の5階に出店している「丸亀製麺」

スタイルは日本と全く一緒。80%程テーブルが埋まっている。



「うどん 中盛り 15元」

南京の近代史

清代に入ると「江寧」と呼ばれるようになった。「太平天国の乱」では占領され「天京」とされた。

1858年の天津条約・1860年の北京条約に於いて西欧に対して開港した。

「辛亥革命」により「中華民国」が成立すると、1927年4月には国民政府の首都となった。

「日中戦争（支那事変）」中の1937年12月には日本軍によって占領された。

1940年3月に「汪兆銘政権」の首都となった。

1949年10月1日に「中華人民共和国」が建国されると直轄地になるが、1953年に江蘇省の発足とともに同省の省都となった。

「太平天国の乱」

当時の中国は「アヘン戦争」「アロー戦争」で疲弊し、戦時賠償に苦しむ清帝国は増税を行い貿易による銀の流出から経済的にインフレーションを起こしていました。

清朝の中国で「洪秀全」を中心にキリスト教の信仰を背景にした組織「太平天国」によって反乱が起きた。

「辛亥革命」

1912年に「孫文」が南京で臨時大総統への就任と共和制を宣言、「中華民国」を建てた。

「袁世凱」は革命政府との決戦を望まず、交渉によって解決を図り、孫文から中華民国臨時大総統職を獲得することと引き替えに、皇帝を退位させて「清朝」支配を終わらせた。

「日中戦争（支那事変）」

「満州国」をつくった日本は、「蒋介石」率いる国民党の影響を除こうと分断工作に入る、中国側は「国民党」と「共産党」とが「一致抗日」で内戦を停止していた。

「盧溝橋事件（1937年）」が起きると、日本軍はさらに首都「南京」に進撃して12月13日に占領したが、その前後を含めて兵士も民間人も問わない「南京大虐殺事件」を引き起こしたとされている。

蒋介石率いる国民政府は「南京」から「重慶」に首都を移して抗戦を続け、共産党の「八路軍」もゲリラ戦で日本軍と戦った。

「汪兆銘政権」日本は「蒋介石」に代わる新たな交渉相手として、日本との和平交渉の道を探っていた「汪兆銘」の擁立を画策した。

汪兆銘は日本の軍事力を背景として、北京の「中華民国臨時政府」や南京の「中華民国維新政府」などを結集し、1940年3月30日には蒋介石とは別個の「国民政府」を南京に樹立した。

南京市の概略

雄大な長江と明代の城壁が自慢な南京は、北京、西安、洛陽と並ぶ中国四大古都の一つ。3世紀以降は10の主な王朝がここに都を置いていた歴史ある街。

また、「中国3大かまど」（残りは、武漢、重慶）の一つで、夏は猛暑に見舞われる。

10月に入ると、日本と同じで日中は暑いですが、朝夕は気温が下がり過ごしやすい。秋風に吹かれて南京の街を歩く。



明代に作られた「中華門」

中国に存在する最大の城門。周囲34km、城門数13、幅118m、奥行き128mもある。中華門はまるで巨大な要塞である。

地下鉄1号線の「中華門駅」で降りて、逆戻りすれば中華門にぶつかる。

地下鉄や道路は城壁の下をくぐっている。



こんな景色の道を進む



壁には数々の戦いの跡が残っている。1980年以降に整備され観光客に開放されている。



中華門の奥に「南京城」があったが、今は存在していない。「写真はジオラマ」



35 元払って入門する。上に登ると南京の街が一望できる。秋風が気持ちいい。上はフラットになっている訳ではない。



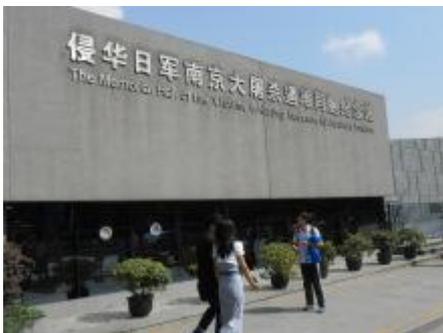
城、要塞の作りと同じで、敵が侵入しても 360 度どこからでも上から攻撃できるようになっている。こうした作りが 3 重に備えられている。



「万里の長城」のような城壁が 3 4 km も続いていた。
1930 年代、日本軍もここで「中国国民党軍」と戦っている。

侵華日軍南京大屠殺愚難同胞紀念館 1日目

地下鉄2号線の「雲錦路駅」を降りてすぐ。



1937年 日本軍は南京に侵攻し「南京城」を占領した。

2006年に工事に着工し、2007年に以前の3倍の規模に拡大された。

大連の満州鉄道博物館の石碑の日付も2007年である。



死んだ子供を抱えて空を見上げる女性の像

歴史を勉強して、絶対に同じ間違いを繰り返さない。

平和の有難さを実感。永遠の平和を祈る。

館内は写真撮影禁止である。

若い中国人観光客の姿は見かけるが、日本人の姿はない



月曜日は休館日であった。

「南京 侵華日軍南京大虐殺偶難同胞記念館」

日を改めて再度来館する。ちなみに毎週月曜日は休館であることが分かった。中国の「国慶節（建国記念日）」の連休だけあってもの凄い人の行列が続く。日本人は完全にアウェイ状態。2000人～3000人の行列に並ぶ。帽子を深くかぶりあまり目立たないようにする。若い女性の集団の後に並ぶ。



日本の芸者のTシャツを着た若者。



「魚釣島 中国的」と書かれたTシャツ。

「尖閣諸島 日本的」と書いても迫力がない表現。

「偶難者 300000」

各ところに300000の文字が目立つ。
2007年に74000㎡に拡張された。



「前書き」

館内は中国語、英語、日本語で解説されている。

日本軍は、6週間で30万もの市民を殺害し、個人の財産を略奪した証拠と書いてある。



数々の写真や新聞、日記、取材記事などが展示されている。



写真は残酷なものも展示されているが、誰がどの意図で撮影したのか分からないものもある。



「南京城陥落」の写真



当時の日本の新聞

「百人斬り 超記録」と日本の新聞も展示されている。マスコミも戦争をあおった。これも事実。



300000人の名簿が保存されているというが、内容は分からない。



館内を進むに連れて、表現が次第に穏やかになって行く。



「許すことはできても、忘れてはいけない」

と書いてある。



「降伏調印式」の万年筆

「結び」の言葉

「戦争は必ず被害をもたらすことを証明している。国が弱ければ侵略される。侵略が起きれば人民に災害が及ぶ。

愛国主義の旗を高く上げ、祖国の統一を実現し、世界平和のために努力しなければならない。戦争を遠ざけ、平和を愛し、調和にある世界のために奮闘しよう。」

まともなことが書いてある。

ここで、注目する言葉は、「国が弱まれば侵略される」

これは、どこの国にも共通していることだ。



「平和の祈りを込めた平和大鐘」

展示品は写真や新聞が主である。本物か本物でないかは個人の判断に任せる。これだけの展示品を集められれば、浅い知識では反論できない。

南京大虐殺は「あった」「なかった」の議論をする前に、まず、事実を見ることも必要。そこで、自分で判断する。

南京で日本人だからと、差別や危険な目にあつたことはない。平和な街である。機会があつたら訪れてみてはいかがでしょう。勉強になります。

平和の尊さを学ぶ